



# 筆を取り ひとえに念じ

## 南無阿弥陀仏

### 第一回写経会

十月二十四日(土)は天候にも恵まれ、記念すべき第一回目の写経会の開催となりました。

弘経寺では初めての写経会とあって準備に不慣れな事がいくつかありましたが、午後一時四十五分より受付を開始することができました。開始と共に十人く二十人と参加者が多くなり、四十人を超える参加者で二十代から七十代まで幅広い年齢層が集まる写経会となりました。

法話は写経会の歴史・はじまり等、今回の写経の字の意味、内容の講釈を行い、その後、写経を一齐に行いました。

写経は静寂の中、参加者みなさん真剣な眼差しで半紙に向き合い、筆に不慣れな現代においては日常生活とは違った緊張感に包まれつつ、約三十分ほどで終了しました。

その後は、みなさん共にお念仏を行い、一人一人が写経を行った半紙を阿弥陀様にお納めして終了となりました。

ご参加された方も心地良い緊張と一身に集中することで、何か感じ取っていただけののではないかと感じる一日となりました。

第一回ということで、迷惑をお掛けしてしまつたところもあつたかと存じますが、これからも毎月一回続けて、多くの方にご参加していただける写経会を行ってゆきたいと思ひます。

### 写経会に参加して

土生末治

毎日の生活の中では筆を使う事は無いので悪筆はなはだしく、多勢の人たちと写経をする事はひどい緊張と下手な字の恥ずかしさで、いっぱいであつた。そういう精神状態であつたが、写経会を開催してくださった事に感謝し喜びながら写経を始めたときであつた。

金田御前の法話と写経の進め方等のお話を拝聴していたので、三文字ほど書き始めると、足のしびれ、筆先が震え書きが出来なくなつてしまった。

そこで、書くことを止め、合掌して、「南無阿弥陀仏」と心の中で三回念ずると、足のしびれが無くなり、筆先の震えもなくなり、何文字か書き進めることができた。

でもすぐに、足のしびれ、筆先の震えが起き、前と同じ様に「南無阿弥陀仏」を念じ、書き進めることを繰返しながら、写経を終わらせることができた。

念仏により、心が静まるという、すばらしい経験をしました。

このように、「南無阿弥陀仏」を念ずることが、心身に大きく働きかける事に気付けたのは、大変に、有難いことだと思ひます。

これは、写経会以外では得られない貴重なすばらしい経験であり、写経会の楽しみであると考えます。

写経会を開催して、くださったことに心から感謝いたします。

次回も続けて、必ず参加したいと思ひます。

### 法話とお歌のつどい

このたび浄土宗茨城教区では師走の中でしみじみと仏様のお話を聞き、尊い教えを我が身に頂戴するつどいを聞くことになりました。またそのつどいの中で、仏様の教えを分かりやすい歌詞と心に沁みるメロディーで表現したお歌(「御詠歌」「和讃」といいます)を聞いたり歌ったりしながら仏様の教えをもっと身近に感じて頂き、念仏の信仰を共に深めるつどいになつて欲しいと思ひます。

参加費は無料です。特別な用具もありません。お気軽にいらしてください。どうぞ沢山の皆様の参加をお待ちしております。

- ・期日：十二月十五日(火)
- ・会場：大楽寺本堂 常総市水海道橋本町三三四六  
TEL.0297-231-0001
- ・日程：受付 午後一時～一時三十分  
法話・お歌 午後一時三十分～三時
- ・講師：大本山増上寺教務部長・吉水講詠唱教導司  
前橋市大蓮寺住職・蓮池光洋先生
- ・準備：筆記用具
- ・対象：子供から大人まで年齢も性別も経験も問いません。どなたでもお気軽にどうぞ！
- ・お問合せ：飯沼弘経寺

### 別時念仏会

左記のとおり別時念仏(お念仏の会)を開催いたします。このお念仏の会は茨城県内在住の若いお坊さんたちが毎年末に修しているものです。若いお坊さんたちと声を合わせてお念仏をお称えするのは実に清々しく、良いことも悪いこともいろいろあつた一年をお念仏によつてしめくくることによつて、新しい年を気持ちよく迎えることができます。

参加費は無料です。どなたでもご参加いただけます。奮つてご参加ください。

- ・日時：十二月十四日(月) 午後三時
- ・場所：飯沼弘経寺本堂
- ・参加費：無料
- ・持ち物：輪袈裟、念珠

### 撰益文

光明徧照  
十方世界  
念仏衆生  
撰取不捨  
南無阿弥陀佛

平成 年 月 日

第一回写経会にて、写経した内容